

(160) 福島県郡山市湖南町の金山沢鉾山

本鉾山は猪苗代湖の東岸近傍にある。岩友とともに訪問した。東北地方にある金山を総収録している参考文献（1）によれば、本鉾山の鉾床は黒鉾類似の鉾床であり、鉾石鉾物は方鉛鉾、閃亜鉛鉾、黄銅鉾の集合体、金、銀を含有している。脈石鉾石としては石英、方解石、石膏が認められる。

探査日 2019年4月



図1 福島県の郡山と猪苗代湖の中間に本鉾山がある。理解しやすいようにこの地区の広域地図中で本鉾山の位置を示す。赤丸が金山沢鉾山の位置。東北道を郡山南ICで降り、郡山から猪苗代湖に向かう6号線を西行し、猪苗代湖畔の地区に出ることになる。

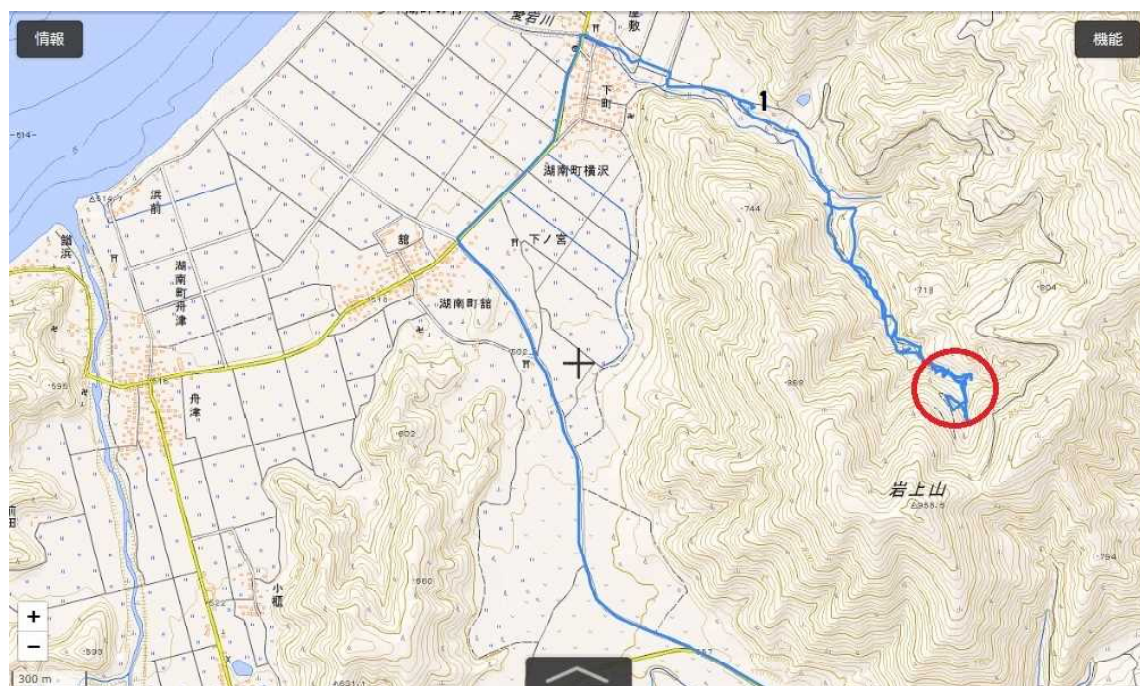


図2 A点の所で、6号線から右側に延びている側道に入っていく。それ以降の経路はガーミンによるログ曲線を参考にすると良い。部落に入り、愛宕川に沿って東行していく。が、道は狭い。上流に進んで行くと、左手に風力発電機が佇立している。図中の番号1のところ。この先に、ゲートがあり閉鎖している。この付近から歩くことになる。最初は手入れの行き届いた林道を進むが、そのうちにほぼ手入れの為されていない「廃林道」を進むことになる。現地より先まで林道は辛くも生きている。赤丸のところが金山沢鉾山跡。

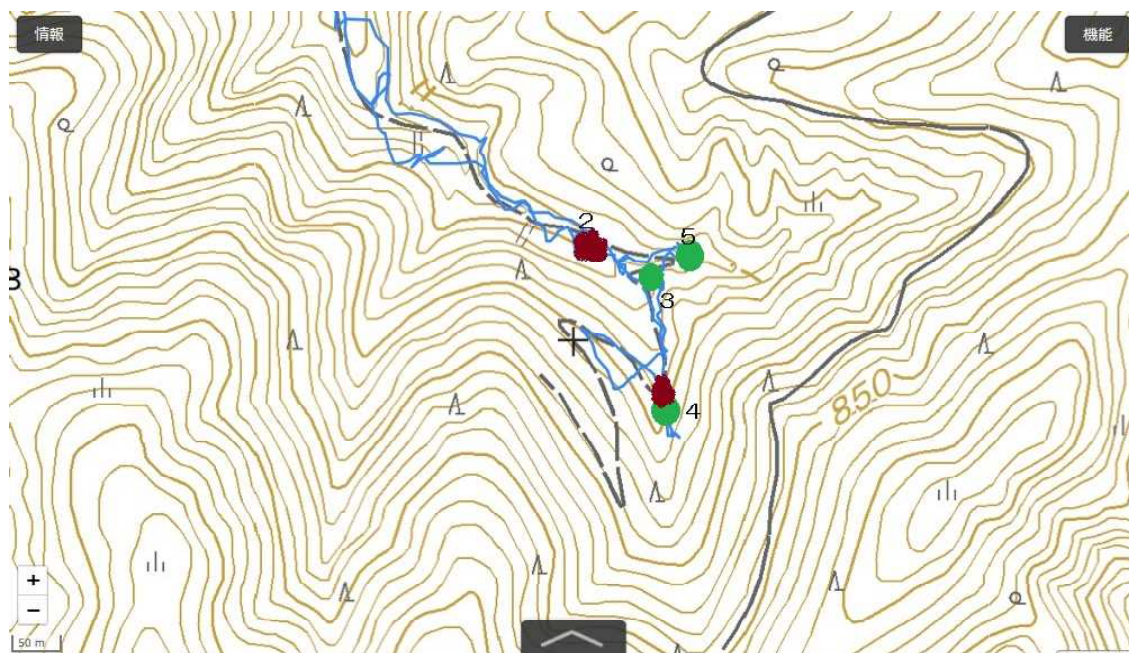


図3 図2の部分拡大図。林道を登り上がるが、後半部分は殆ど手入れされていないので、時期によっては草木で覆われていよう。カマなどを持参すると良い。茶色ベタがズリ跡。黄緑丸が坑口跡、および其れ擬き。番号は後掲している写真に対応させている。

鉱山跡写真



番号1 林道にあったゲート。この写真の左側には風車がある。右側に適当な空き地があったので、ここに駐車。この林道を先に進んで、直に右側にある林道に入っていくのもよし。或いは、ここから少し戻ると、沢に沿った廃れた林道があるのでそれを進んでも良い。図2中の経路ログはその経路を示している



番号2-1 沢の二股出合の所にあったズリ跡。探査日は4月中旬であった。残雪が残っていた。白い部分。この標高は約700m。



番号 2 - 2 その近傍にあったトロッコの
レールと材木などの遺物



番号 3 - 1 凹部に残雪。どうも坑道の
陥没跡らしい



番号 3 - 2 付近にあった金山沢の
植林記念碑



番号 4 中央の残雪部分が坑口跡と判断。
一帯ズリ。何に利用したのだろうか。
何故か、塩ビパイプが 2 本露出している。
何に使用したのであろうか。薬効がある
として、金鉱山の湧水を利用した温泉の
例はあるが。



番号 5 - 1 中央の残雪の所に坑口あり



番号 5 - 2 それに近づいての一樣。入り口付
近の下部は少し埋もれているが、
奥は確りして深そう

採集鉱物



番号2の所のズリで採集した、黒鉱擬きの標本。
重そうであった石をハンマーで一撃。破断面は
灰色で、微少な黄鉄鉱が沢山こびりついていた。

参考文献

(1)「日本金山誌 第3編 東北」、社団法人 資源・素材学会、1992年。